

交接腕が2本あるミズダコ

情報提供機関：北るもい漁業協同組合初山別村支所

北海道北部日本海沿岸の初山別村にて、交接腕が2本あるミズダコが2012年1月21日に見つかりました。交接腕の2本あるミズダコは珍しいので、ミズダコの体のつくりとあわせて紹介します。

ミズダコは北海道周辺海域から年間約1.5～2.0万トン水揚げされる水産資源です。ミズダコには足が8本ありますが、生物学的には腕と呼びます。この腕には右、左があり、雄の場合、右の3番目の腕を交接腕と呼びます(図1)。交接腕の先端は吸盤が無い舌状片と呼ばれる特徴的な形をしていますので、外見から簡単に雄雌を見分けることができます。

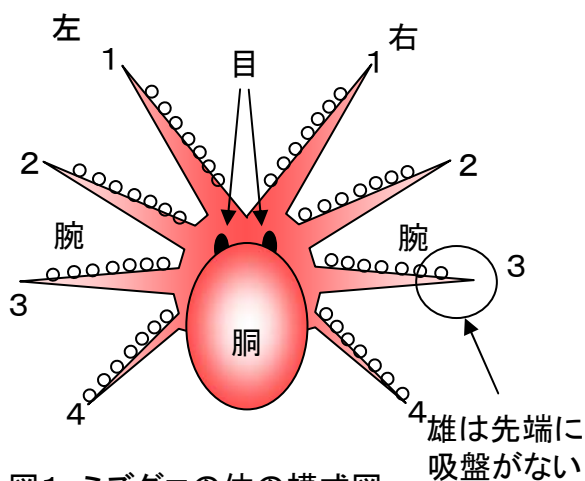


図1 ミズダコの体の模式図

ミズダコの雄は、この交接腕を使って精子の入ったカプセル(精莢)を雌に受け渡します(交接)。通常、この交接腕は1匹につき、1本しかありません。しかし、初山別村の前浜から水揚げされたミズダコには、なんと2本の交接腕がありました(写真1)。

このミズダコは体重6～7kgで、初山別村前浜で漁獲されました。加工場で見つかったため既に加工処理された後でしたが、写真からはっきりと交接腕が2本確認できます。よく見ると、1本の交接腕が2又になっています。ミズダコの腕が切断した場合、切断箇所から小さい腕が再生するのは、よく見られます。そのため、なんらかの原因で切れた交接腕が再生する過程で二股になったと思われます。このような雄が、交接の際に腕を2本使うかどうかはわかりませんが、興味深い事例だと思います。

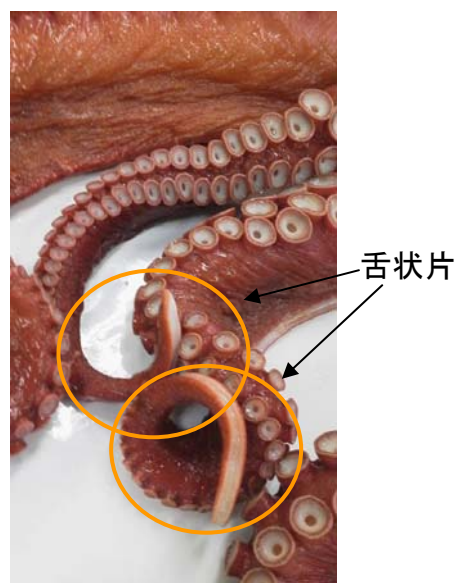
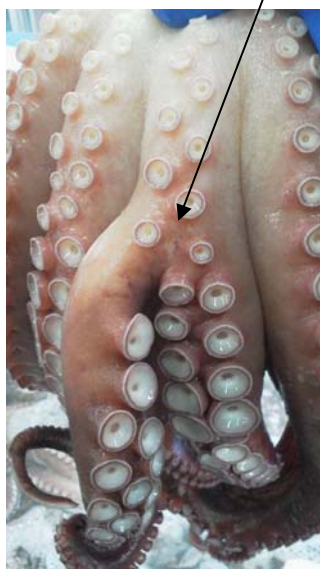


写真1 初山別村前浜で漁獲された交接腕の2本あるミズダコ(ただし、写真は加工後のもの)